

## 令和 5 年食中毒発生状況の概要について

令和 6 年 10 月 8 日  
厚生労働省健康・生活衛生局食品監視安全課

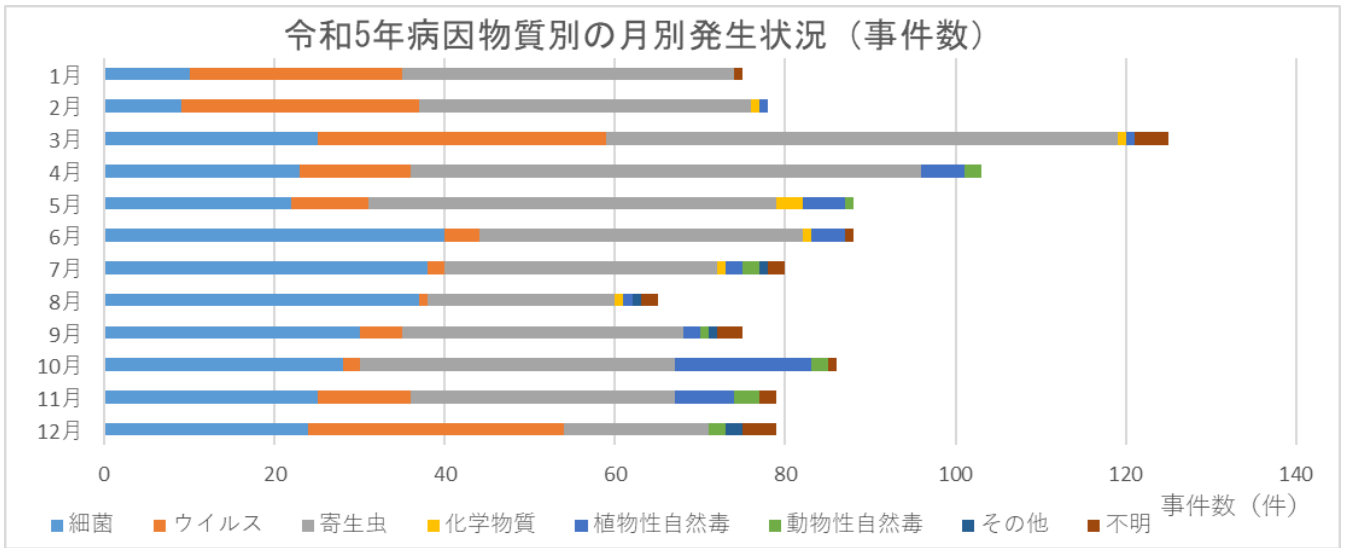
**1. 発生状況（事件数, 患者数, 死者数）**

- 令和 5 年に国内で発生した食中毒事件数は 1,021 件（対前年+59 件）、患者数 11,803 人（対前年+4,947 人）、死者数 4 人（対前年-1 人）であった。
- そのうち、患者数 2 人以上事例は、537 件（対前年+169 件）、患者数 11,319 人（対前年+5,057 人）であり、全体の事件数の 52.6%、全体の患者数の 95.9%を占めていた。
- 患者 500 人以上の食中毒は 2 件（対前年+2 件）であった。

**2. 月別発生状況**

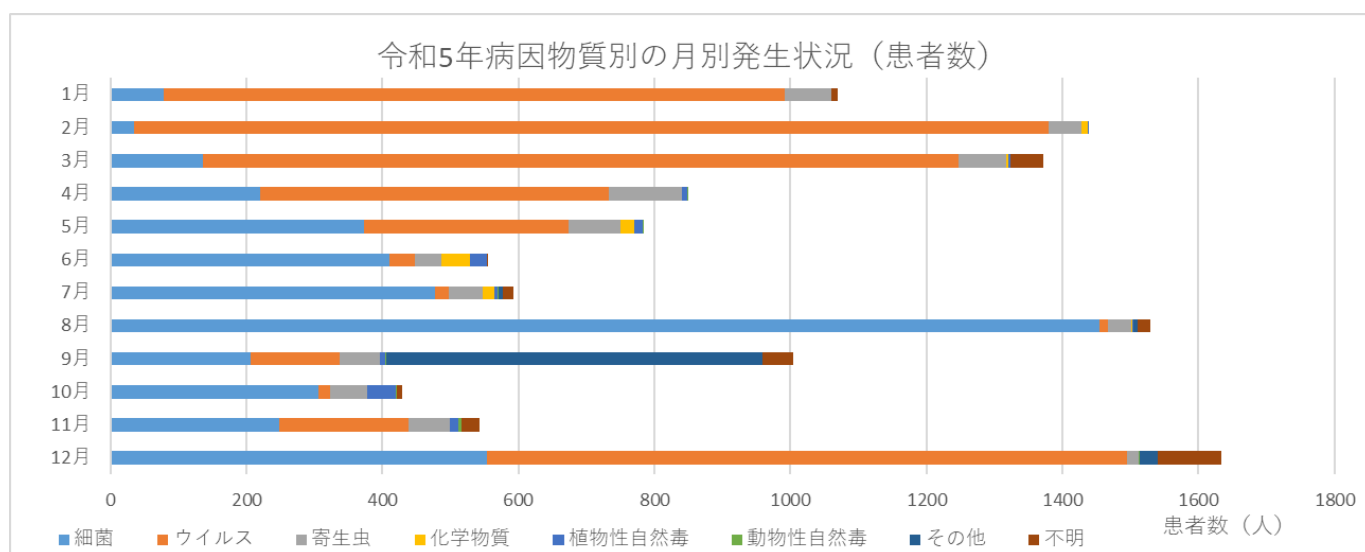
食中毒事件の発生が最も多かった月は、3月の 125 件（12.2%）で、次いで4月の 103 件（10.1%）、5月・6月の 88 件（8.6%）の順であった。患者数では、12月の 1,634 人（13.8%）、8月の 1,530（13.0%）、2月の 1,439 人（12.2%）の順で多かった。

図1：令和5年月別発生状況（事件数）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	10	9	25	23	22	40	38	37	30	28	25	24
ウイルス	25	28	34	13	9	4	2	1	5	2	11	30
寄生虫	39	39	60	60	48	38	32	22	33	37	31	17
化学物質	0	1	1	0	3	1	1	1	0	0	0	0
植物性自然毒	0	1	1	5	5	4	2	1	2	16	7	0
動物性自然毒	0	0	0	2	1	0	2	0	1	2	3	2
その他	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	2
不明	1	0	4	0	0	1	2	2	3	1	2	4
合計	75	78	125	103	88	88	80	65	75	86	79	79

図2：令和5年月別発生状況（患者数）



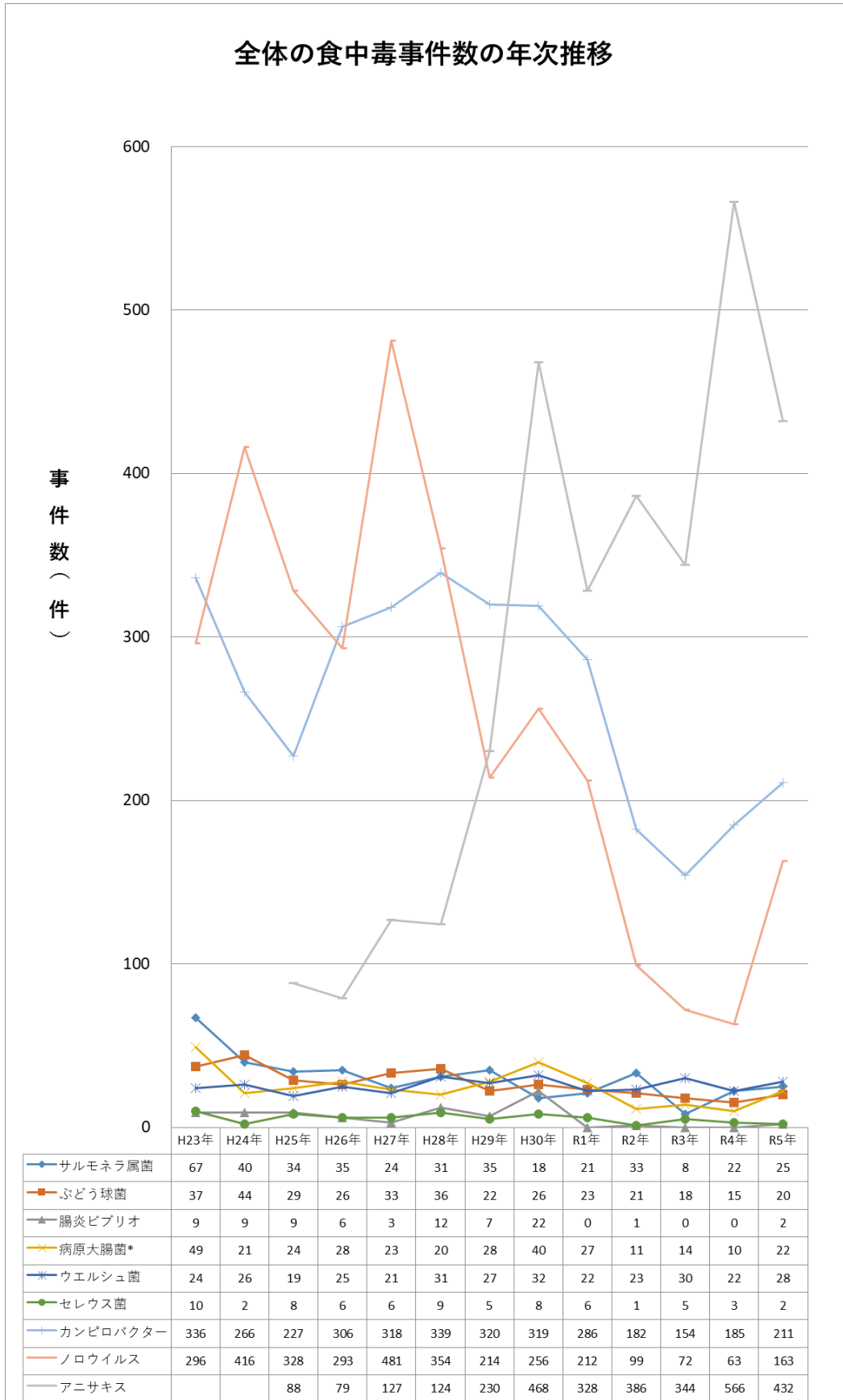
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
細菌	79	35	136	221	373	410	478	1454	207	306	249	553
ウイルス	912	1344	1111	512	301	38	20	13	130	17	190	942
寄生虫	69	49	71	108	76	39	50	35	60	55	60	17
化学物質	0	10	3	0	21	42	16	1	0	0	0	0
植物性自然毒	0	1	3	7	12	24	5	1	7	42	12	0
動物性自然毒	0	0	0	2	1	0	2	0	1	2	5	2
その他	0	0	0	0	0	0	6	6	554	0	0	26
不明	9	0	48	0	0	3	16	20	45	7	27	94
合計	1069	1439	1372	850	784	556	593	1530	1004	429	543	1634

### 3. 病因物質別発生状況

- 病因物質別の事件数を見ると、アニサキス（432件、42.3%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（211件、20.7%）、ノロウイルス（163件、16.0%）の順で多かった。また、病因物質別の患者数は、ノロウイルス（5,502人、46.6%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（2,089人、17.7%）、ウエルシュ菌（1,097人、9.3%）の順で多かった（図3、4）。
- そのうち、患者数2人以上の事例の病因物質別の事件数を見ると、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（188件、35.0%）、ノロウイルス（163件、30.4%）、ウエルシュ菌（28、5.2%）の順で多かった。また、患者数2人以上の事例の病因物質別の患者数は、ノロウイルス（5,502人、48.6%）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（2,066人、18.3%）、ウエルシュ菌（1,097人、9.7%）の順で多かった。
- 腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数19件（1.9%）、患者数265人（2.2%）、死者0人であった。
- 病因物質別発生状況の年次別推移では、アニサキス、カンピロバクターとノロウイルスの事件数が高い値で推移している。
- 寄生虫（クドア、サルコシスティス、アニサキス、その他の寄生虫）については平

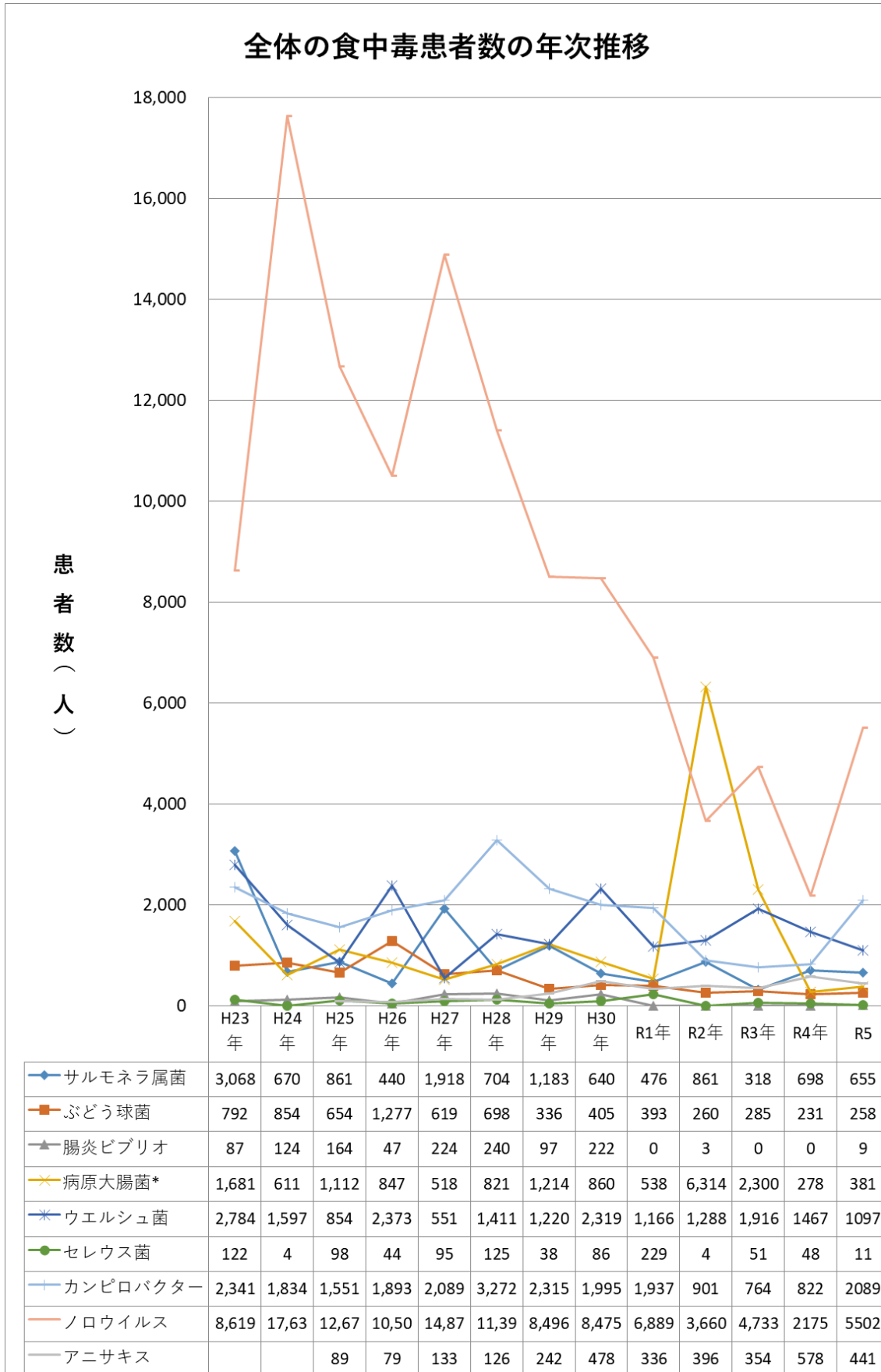
成 25 年 1 月から食中毒事件票に病因物質種別として追加されている。令和 5 年の発生状況は、クドアが 22 件 246 人、アニサキスが 532 件 441 人、サルコシスティスが 0 件となっている。

図3：平成23～令和5年食中毒事件数推移



<※腸管出血性大腸菌を含む。>

図4：平成23～令和5年食中毒患者数推移



<※腸管出血性大腸菌を含む。>

#### 4. 原因食品・施設別発生状況

- 原因食品・食事の判明したものは、事件数 813 件(79.6%)、患者数 11,491 人(97.4%)であった。
- 原因食品別の事件数を見ると、魚介類(318 件、31.1%)、野菜及びその加工品(44 件、4.3%)、肉類及びその加工品(34 件、3.3%)の順で多かった(「その他」を除く。以下この項において同じ。)。また、原因食品別の患者数は、穀類及びその加工品(940 人、8.0%)、魚介類(694 人、5.9%)、複合調理食品(564 人、4.8%)の順で多かった。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例における原因食品別の事件数を見ると、魚介類(38 件、7.1%)、肉類及びその加工品(32 件、6.0%)、野菜及びその加工品(28 件、5.2%)の順で多かった。また、患者数 2 人以上事例における原因食品別の患者数は、穀類及びその加工品(940 人、8.3%)、複合調理食品(564 人、5.0%)、魚介類(414 人、3.7%)の順で多かった。
- 原因施設の判明したものは、事件数 782 件(76.6%)、患者数 11,425 人(96.8%)であった。
- 原因施設別の事件数を見ると、飲食店(489 件、47.9%)、家庭(112 件、11.0%)、販売店(62 件、6.1%)の順で多かった。また、原因施設別の患者数は、飲食店(6,527 人、55.3%)、製造所(1,169 人、9.9%)、仕出屋(1,123 人、9.5%)の順で多かった。
- そのうち、患者数 2 人以上の事例における原因施設別の事件数を見ると、飲食店(353 件、65.7%)、事業場(32 件、6.0%)、家庭(28 件、5.2%)の順で多かった。また患者数 2 人以上の事例における原因施設別の患者数を見ると、飲食店(6,391 人、56.5%)、製造所(1,168 人、10.3%)、仕出屋(1,123 人、9.9%)の順で多かった。

#### 5. その他

令和 5 年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省健康・生活衛生局ホームページ「食中毒に関する情報」

([https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/04.html)) で公開している。